たまねぎの病害（べと病など）に注意しましょう！
（平成２７年４月２８日）

たまねぎで、白色疫病やべと病などの病害の発生が見られます。一部地域やほ場では、やや多く発生が見られます。

最近の気候＊１は、気温は平年より 0.1 度とやや高めですが寒暖の差が非常に大きく、また、曇雨天が多かったことから、日射量が平年と比べ 70%と少なく、降水量は平年比 137%と多く推移しました。今後1ヶ月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並かやや少ないと予報されていますが、今後の天候次第では、特にべと病の発生が急に増える恐れがあります。

この時期から収穫前に、これらの病害にかかると球の肥大が悪くなり、収量の減少や品質が低下します。ほ場をよく見回り発生に気をつけ、下記事項に注意し防除に努めましょう。

＊１ 大阪管区気象台（4月 23 日発表 大阪府農業気象速報 4 月中旬の気象概況）

たまねぎのべと病と白色疫病の見分け方

	べ と 病	白 色 疫 病
病徴	主に葉に発生。春期に発生する2次病斑は、黄色で大型の長卵形から楕円形をした病斑を生じる。病斑上に、白または暗紫色のかびが生えることが多い。	主に葉に発生。初め中央部付近に、不整形で周縁部がやや不鮮明な油浸状、青白色の病斑を生じる。拡大すると葉は下垂しよじれる。被害が進むと、株のほとんどの葉が白色の葉枯れ状となる。
発生しやすい条件	一般には 4 月下旬から5月上旬に曇雨天が続くと発生しやすい。気温 10～20 度で発生し、特に 15 度程度が好適である。	2～3月では温暖、4月冷涼で連続的に降雨があると発生しやすい。15～20 度で多雨で発生が増える。晩生種は、早生種より被害程度は軽い。

▲べと病の被害葉1
（黄色で楕円形をした病斑）

▲べと病の被害葉2
（発生初期の霜状のかび）

▲白色疫病の被害葉

1　防除対策

（1）耕種的防除

・排水を良くする。

・被害葉や被害株は速やかに、ほ場外へ持ち出し処分する。

（2）薬剤による防除

・予防散布に重点をおく。
・発生を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。

〈参考：発生予察調査結果〉 各市2地点・各地点25株調査(予察巡回地点)

発病株率
（単位：%）

	市町村名	4月9日	4月 20、22 日＊2	4 月後半平均（過去 10 年）
白色疫病	岸和田市 泉佐野市	12.0% 4.0%	14.0% 7.5%	6.9% ー
べと病	岸和田市 泉佐野市	4.0 % 0.0 %	2.0% 0.0%	2.6% ー

＊予察巡回地点以外　100 株調査・発病株率(単位：%)　　( )内は、調査ほ場数

	市町村名	4月 20、22 日＊2	備　考
白色疫病	岸和田市 泉佐野市 富田林市	10.3%(5 ほ場) 11.9%(7 ほ場) 3.0%(8 ほ場)	
べと病	岸和田市 泉佐野市 富田林市	4.5% (5 ほ場) 0.4% (7 ほ場) 0.0% (8 ほ場)	一部で、発生が目立つ

＊2　泉佐野市：4 月 20 日　岸和田市：4 月 22 日

〈参考：登録薬剤：たまねぎ（白色疫病・べと病)〉

登録農薬	白色疫病	べと病	備考
ｼﾞﾏﾝﾀﾞｲｾﾝ水和剤	400～500 倍　3 日/5 回	400～600 倍　3 日/5 回	予防

ﾘﾄﾞﾐﾙｺﾞｰﾙﾄﾞMZ	1,000 倍 7 日/3 回	1,000 倍 7 日/3 回	治療
ﾎﾗｲｽﾞﾝﾄﾞﾗｲﾌﾛｱﾌﾞﾙ	2,500 倍 3 日/3 回	2,500 倍 3 日/3 回	治療
ﾌﾟﾛﾎﾟｰｽﾞ顆粒水和剤	1,000 倍 7 日/3 回	1,000 倍 7 日/3 回	治療

注）ジマンダイセン水和剤とリドミルゴールド MZ は成分としてマンゼブを含み、総使用回数は合わせて5回まで。

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府病害虫防除指針（http://www.jppn.ne.jp/osaka/）

●農林水産消費安全技術センター　農薬登録情報検索システム（http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html）

で確認してください。